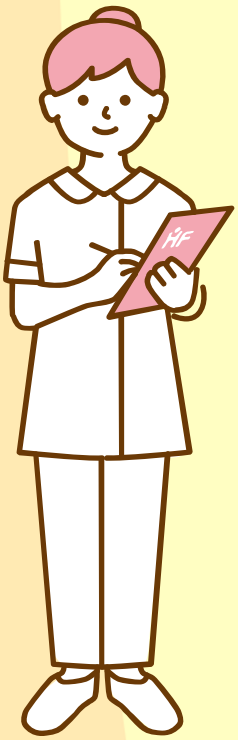
妊娠期からの親子・家族の愛着形成と虐待予防のための家庭訪問活動



報告書

2022 年度

NPO法人
HEALTHY FAMILY はままつ

目　次

理事長あいさつ・・1

１．2022 年度の活動概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
１）家庭訪問事業
２）家庭訪問員養成事業
３）研修会
４）地域連携に向けての交流会
５）新型コロナ対策生活困窮者支援事業
６）NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動

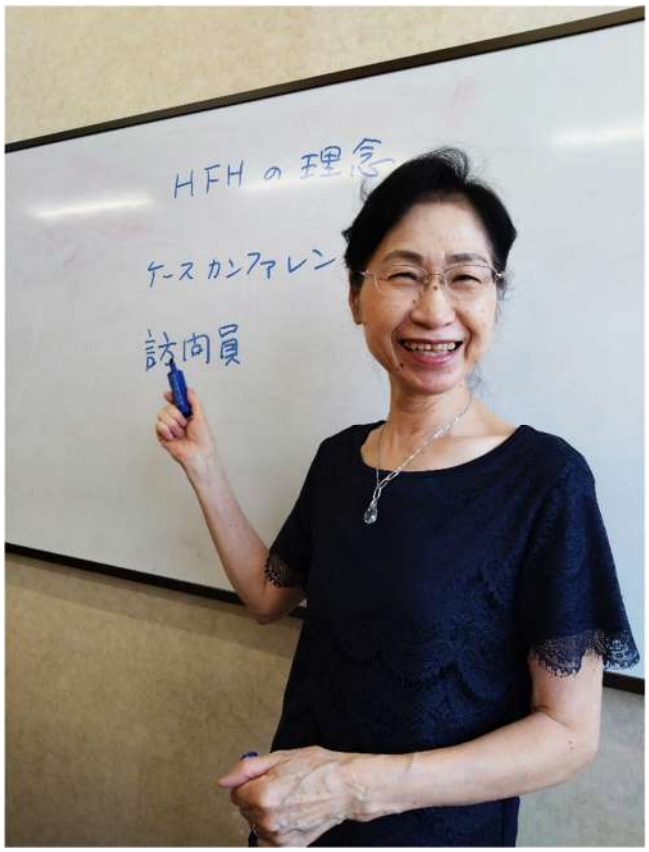
２．活動内容 ・・4
１）寄り添いを必要とする親子への家庭訪問による支援
（１）実施内容
（２）実施結果
２）家庭訪問員養成講座
（１）実施内容
（２）実施結果
３）研修会
（１）実施内容
（２）実施結果
４）地域連携に向けての交流会
（１）実施内容
（２）実施結果
5）新型コロナ対策生活困窮者支援
（１）実施内容
（２）実施結果
６）NHK 歳末たすけあい年末年始支援
（１）実施内容
（２）実施結果
７）妊娠出産に関する制度と手続きについての翻訳版のホームページ公開

３．今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

参考資料 ・・19

寄附を頂いた皆様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

理事長あいさつ



HEALTHY FAMILY はままつ（以下、HFH）活動を始めて 11 年目になります。本活動の理念である、親子の愛着が形成されやすい妊娠期、出産直後からの家庭訪問を行い、親子・家族の長所に焦点を当てた支援を大切に、親子・家族の愛着を深め、親が自立し、地域で安心して子育てができる支援を行っています。2022 年度は新型コロナ感染対応が徐々に緩和されてきたため、感染予防策は引き続き徹底しながら家庭訪問を行いました。

Covit-19 の襲来から４年目になります。この間に社会環境が変化し、生活困窮者、子どもの貧困、自殺、DV、子ども虐待等が増加し、地域連携のもとでの支援を必要としています。

そこで、HFH では、「令和４年赤い羽根”新型コロナ対策生活困窮者支援事業助成」と「令和４年度(第 72 回)ＮＨＫ歳末たすけあい助成」を受けて、経済的問題をもつ家庭訪問対象者に、育児や日常生活に必要な物資を提供するなど、子育て支援をしている生活困窮家庭の子どもにクリスマスプレゼントまたはお年玉としての絵本、おもちゃ、衣類などの物資を届け、対象者から大変喜ばれました。次年度も継続して行っていく予定です。

令和５年４月からこども家庭庁が行政組織として、子どもまんなか社会の実現を目指して創設されました。妊娠期から子育てまで、切れ目のない支援の実現に近づける機会と捉え、親子、家族の声を行政に届け、親子、家族が地域で安心して子育てができる環境の実現に向けて、HFH の活動として、常に前進、社会的役割と責任を活動に繋げ、地域の人々から愛される活動団体として成長していきたいと考えています。活動として、１）家庭訪問、２）家庭訪問員養成講座、３）子育て中の生活困窮者への支援、４）講演会、研修会、５）多職種連携のための交流会などを行っています。報告書をまとめるに当たり、多くの方々のご理解とご協力、ご支援を賜り、このような成果が得られましたことに感謝申し上げます。

稚拙な報告書ではありますが、NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつのメンバーが活動理念に基づき一丸となって、日々邁進してまいります。皆様にご拝読頂き、HFH の活動をご理解の上、ご一緒に活動して頂ける方を募っております。皆様の温かいご理解に支えられて、家庭訪問を必要としている親子・家族に寄り添い、自立した親子・家族が増えていくことを祈願して御挨拶とさせて頂きます。

NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
理事長　久保田君枝

１．2022 年度の活動概要

１）家庭訪問事業

新型コロナウィルス感染が継続していたが、対象者の状況や意向を確認しながら、感染予防対策を徹底して家庭訪問を行ったほか、電話やメール等での支援を実施した。地域の産科婦人科医院の産後ケアとの連携ルートができ、紹介ケースの訪問が始まった。また、妊娠期からの支援に加えて、子育て期からの支援も活動に位置付けて、対象者に活動を紹介するリーフレットと QR コードから支援要請ができる名刺大カードを作成した。リーフレットやカードは浜松市内の行政機関の窓口や子育て広場に配置したり、小児科や産婦人科医院、保育施設などに配布した。地域を担当している保健師と協働して家庭訪問による子育て支援も実施した。

また、2022 年度の「新型コロナ対策生活困窮者支援事業」（静岡県共同募金会）が採択され、行政に携わる保健師などから物資支援ケースの紹介があり、家庭訪問を通して物資支援を行った。

事例検討会は、毎月開催した。

＜家庭訪問ケース＞

2022 年度：23 ケース

２）家庭訪問員養成事業

新型コロナウィルス感染もワクチン接種の拡大に伴って落ち着いてくることが期待されたため、養成講座を開催した。県外講師の講座は Zoom での講義とした。HFH の家庭訪問活動の考え方に基づいて具体的な支援方法を全 10 回の講座で予実施した。

＜受講者数＞

2022 年度　全講座受講修了者：２人、部分受講者：３人

３）講演会・研修会

質の高いサービスの提供が求められるため、年 1 回外部講師を招いての講演会・研修会を実施している。2022 年度は予定していた講師の健康上の都合により計画を変更して、新しい知見の報告を基に妊娠期から子育て期にわたる支援について考える研修会を行った。

テーマ「妊婦の食生活と体組成から児の出生体重を考える」

内　容：聖隷クリストファー大学助産学専攻科　三輪与志子先生による情報提供
「妊婦の食生活と体組成の現状」
知見を活かして支援にどのようにつなげるかを意見交換

４）地域連携に向けての交流会

質の高い子育て支援をするためには、保健・医療・福祉・教育が連携していくことが重要である。2019 年度からネットワークづくりを目指して、交流会をスタートさせ、社会福祉関係者や保健師との交流会を行ってきた。今年度は、地域の産婦人科医院と地域で様々な親子支援活動を実践している社会福祉士との交流会を開催した。

第６回地域連携に向けての交流会

目　的：産婦人科医院の産後ケアの現状と課題を知り、HFH と連携の糸口を検討する。

内　容：地域の産科婦人科医院の池平香奈師長による報告

「木村産科婦人科医院の産後ケアの現状と課題」

産後ケアのシステム作りと現状の報告をもとに、HFH との連携について意見交換

第７回地域連携に向けての交流会

目　的：地域の人たちとの交流を通した活動の実際を知り、HFH との連携の糸口を検討する。

内　容：HFH 賛助会員で社会福祉士の和久田ゆかり氏による活動の紹介

「地域の人たちとの交流を通した活動の紹介」

ママ講座や親子講座を開催した経験を参考に、今後の HFH の取り組みについて意見交換

５）新型コロナ対策生活困窮者支援事業

「令和４年度赤い羽根ポスト・コロナ社会に向けた福祉活動応援キャンペーン～それでもつながり続ける地域・社会をめざして～」事業に採択され、子育てに必要なおむつやミルク、衛生用品、米などの物資を家庭訪問を通して届けた。

実施期間：2022 年６月～2023 年３月

物資支援件数：15 ケースに対して合計 57 回の物資支援を実施

６）NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動

様々な要因で孤立しがちな社会的弱者に対して、NHK 歳末助け合いに寄せられた多くの寄付者からの温かい思いやりを届け、新しい年を迎えるための支援をする事業「NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動」に採択され、クリスマスプレゼントを届けた。

実施期間：2022 年 12 月～2023 年１月

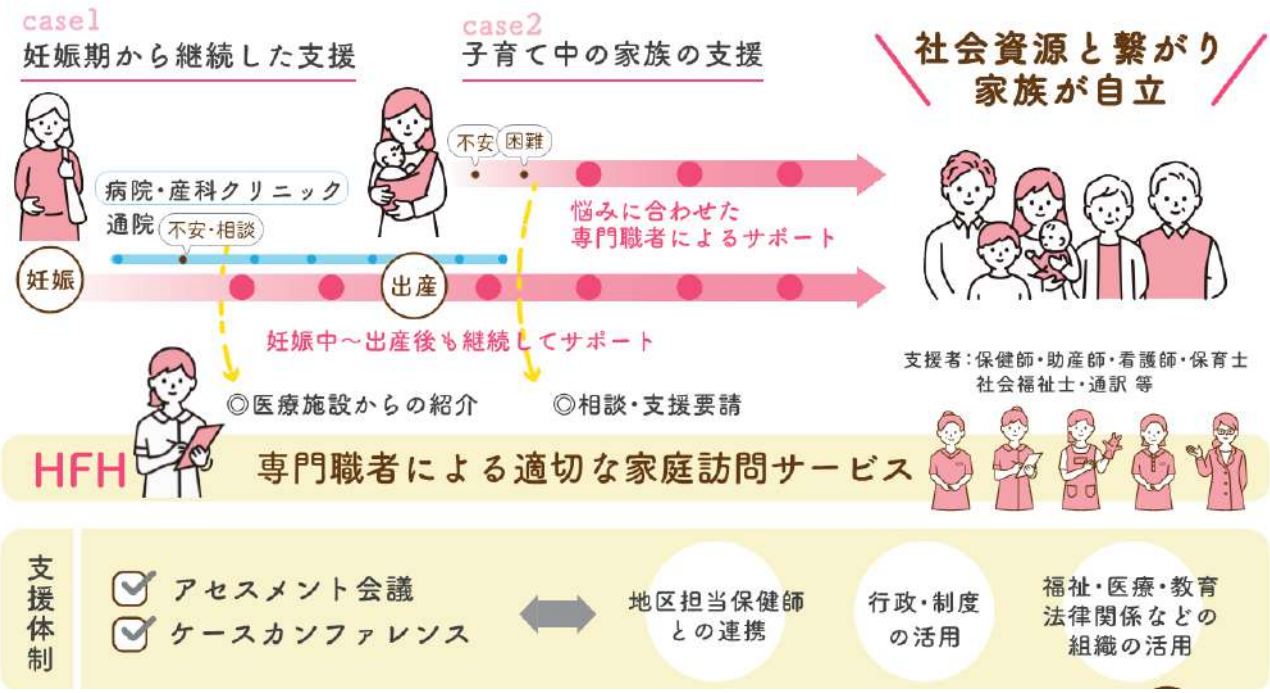
支援件数：13 家庭の 20 人の子どもにプレゼントを届けた

2．活動内容

1）　寄り添いを必要とする親子への家庭訪問による支援

（1）実施内容

＜HFH 活動概要図＞



家庭訪問の対象は、病院などから紹介を受けて、スクリーニング項目に基づいてアセスメント会議で決定し、同意が得られたら「同意書」を交わして、妊娠期から産後６か月までの地域とのつながりができるまでを一区切りとして家庭訪問による支援を行ってきた。家族のもつニーズの把握のための「両親の背景調査」を行い、家族がもつ長所を生かした支援計画をたて、親子の愛着形成を主軸として親になる自覚が持てるように支援してきた。2022 年度も、新型コロナウィルス感染が継続しており、対象者の状況や意向を確認しながら感染予防対策を徹底して家庭訪問を行ったほか、電話やメール等での支援を実施した。

また、支援対象を子育て中の親子へと拡大して、対象者に活動を紹介するリーフレットに加えて QR コードから支援要請ができる名刺大カードを作成した。リーフレットやカードは浜松市内

の行政機関の窓口や子育て広場に配置し、小児科や産婦人科医院、保育施設などに配布した。4件の問い合わせがあり、3件が家庭訪問支援につながり、親として子育てに前向きに取り組み生活の安全・安定が図られるように支援した。産後ケアを利用した対象者の継続支援として産科婦人科医院からの紹介が3件あった。

更に、地域を担当している保健師と協働して家庭訪問による子育て支援も実施した。2022年度は新型コロナ対策の助成金を得ることができ、経済的な問題を抱える家庭には、オムツやミルク、離乳食、おもちゃなどの育児に必要な物資支援を行った。

月1回のケースカンファレンスで、ケースの情報を共有し、支援方法の検討を行い次回の家庭訪問につなげ、質の高い支援を担保した。

・対 象 者：妊娠中～出産直後で産科婦人科医院より家庭訪問が必要と紹介されたケースなどをアセスメント会議にかけて訪問が決定した親子。また、行政保健師などからの紹介や活動紹介のリーフレットを介して支援要請のあった親子。

・支 援 者：家庭訪問員は家庭訪問員養成講座受講修了している有資格者で当団体にて訪問員として登録している者。

・支援方法：紹介事例は、同意を得た後、出産前もしくは出産直後から訪問を開始した。QRコードからのアクセス事例は、電話で状況を確認し初回訪問時に同意書を交わした。家庭訪問は1時間を目安として、子どもの身体発育状況や育児の様子、家族の思いなどを確認した。今年度も新型コロナウィルス感染拡大の波が収まらず、電話やメールも活用しながら支援を行った。子育てや家族の状況が不安定な時は頻回に訪問し、落ち着いた状況の時は月1回程度の訪問で様子を確認し、子どもの成長・発達に応じた関わりや今後の生活について共に考え見守った。

＜家庭訪問実施ケース＞

2022年度

ケースNO	年代	訪問対象とした要因	支援の状況
1	30代	DV・経済的不安・支援者がいない	終了
2	10代	若年・シングル	終了
3	20代	成育歴の問題	終了
4	30代	メンタルの既往	終了
5	30代	成育歴の問題・育児不安	終了
6	20代	成育歴の問題・支援者がいない・経済的不安	終了
7	30代	育児不安・メンタルの既往	継続
8	30代	育児不安	終了
9	30代	メンタルの既往・育児不安	終了
10	20代	シングル・第2子・未就労	終了
11	30代	シングル・経済的問題・支援者がいない	終了
12	30代	経済的問題・支援者がいない	終了

13	30 代	メンタルの既往・子どもに発達支援が必要	継続
14	30 代	シングル・抑うつ不安	終了
15	30 代	育児不安	継続
１６	10 代	若年・シングル・経済的問題	終了
１７	30 代	成育歴の問題・育児不慣れ・育児不安	終了
１８	30 代	経済的問題	終了
１９	30 代	経済的問題・外国籍	終了
２０	30 代	経済的問題	終了
２１	30 代	育児不安・子どもに発達支援が必要	継続
２２	30 代	育児不安	終了
２３	30 代	成育歴の問題・育児不安	継続

＜ケースカンファレンス会議の開催＞

・会場：聖隷クリストファー大学　会議室

・内容：月に１回家庭訪問員が集まって各々の支援状況を報告し、支援の方向性やサポート内容等を検討して次の訪問につなげた。会議はソーシャルディスタンスを保って行った。

・開催日・参加者（2022 年度）

回	年月日	参加者
第１回	2022 年 ４月 15 日	訪問員　７名、事務局　１名
第２回	2022 年 ５月 13 日	訪問員　７名、事務局　１名
第３回	2022 年 ６月　３日	訪問員　８名、事務局　１名
第４回	2022 年 ７月　１日	訪問員　９名、事務局　１名
第５回	2022 年８月　５日	訪問員　６名、事務局　１名
第6回	2022 年９月　２日	訪問員　６名
第7回	2022 年 10 月　７日	訪問員　７名、事務局　１名
第8回	2022 年 11 月 18 日	訪問員　７名、事務局　１名
第9回	2022 年 12 月　２日	訪問員　７名、事務局　１名
第 10 回	2023 年１月 13 日	訪問員　６名、事務局　１名
第 11 回	2023 年２月　３日	訪問員　６名、事務局　１名
第 12 回	2023 年３月　３日	訪問員　６名

（２）実施結果

23 ケースに対して支援を行った。18 ケースが支援終了となり、５ケースは 2023 年度も継続して支援していく。

２）　家庭訪問員養成講座

（１）実施内容

養成講座をスタートさせた当初からの軸である、親と子が愛着の絆を育んでいくことができるように、HFH の理念と活動目的、家庭訪問スキルなど 10 講座を開催し、妊娠・出産直後から定期的な家庭訪問を行う家庭訪問員を養成した。講座においては、演習が重要な内容も多いため、感染予防対策を徹底して行った。県外講師の講座は Zoom での講義とした。本講座は、在日外国人のための通訳者にも 10 講座を修了することを義務付けている。

・会　場：子ども支援センターはままつ（浜松市中区泉 3-1-38 石川ビル 1 階）
・対　象：保健師、看護師、助産師、保育士、教育関係者、児童民生委員、行政職員、子育て支援者、バイリンガルの方等
・参加費：1 講座 1､000 円

＜2022 年度家庭訪問員の養成講座＞

No	テーマ	講師
1	NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際	久保田君枝
2	地域社会の資源につなぐ	山名れい子
3	ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～	行田智子
4	家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	行田智子
5	子どもの成長・発達と生活づくり	髙橋由美子
6	子どもと心を通わせるふれあい遊び	髙橋由美子
7	訪問の基本～ロールプレイ～	宇田公美子
8	訪問の実際～よくある質問と支援の内容～	上島久美子
9	実践を支える５つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～	坂鏡子
10	実践を支える６つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～	坂鏡子

第 1 回テーマ：「NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際」

・日　時：2022 年 10 月 15 日(土)13：00～15：00
・講　師：久保田君枝(聖隷クリストファー大学助産学専攻科教授)
・参加者：４人

HEALTHY FAMILY はままつ（以下、HFH）の活動理念、目的をヘルシーファミリーアメリカ(以下、HFA)の活動理念を参考に、先進的な母子・家族支援の取り組みについて説明した。アメリカ研修で学んだ、訪問者が家庭訪問時に心がけていることについて紹介

した。それは、訪問者は親の育児行動、愛着行動の良い点を褒め、認め、親の肯定的な育児を促進させ、親子・家族の愛着形成を促し、親の自立を促す支援を行っていた。その成果として、子ども虐待が減少し、子どもが健全に養育され、親子・家族の絆を深め、親の自立に繋げていた。

そこで、日本における虐待予防に、HFH は、浜松方式による家庭訪問活動を通して、ローリスクの親子が自立できる支援を行っている現状を説明し、家庭訪問の事例の紹介を通して、家庭訪問の意義などについて説明した。

さらに、HFH の会員の育成のために、研修やケースカンファレンスなどを行い、訪問員の質の担保のために行っていることを説明した、さらに、家庭訪問員の養成講座を通して会員の募集や家庭訪問員を募り、一緒に活動しましょうと働きかけた。

第２回テーマ：「地域社会の資源をつなぐ」

・日　時：2022 年 10 月 15 日（土）15：00～17：00
・講　師：山名れい子(保健師)
・参加者：３人

前半に「地域社会の資源につなぐ」とはどういうことかという基本的考え方を説明した。後半に養育支援訪問員として知っておくといいと思われる浜松市内の資源について、参加者と情報交換しながら紹介、確認した。参考資料として『はままつ子育てガイド』を紹介、配布した。HFH の愛着形成を主目的としている訪問では、実際の訪問事例を紹介しながら、地域資源を知って適切に活用していくことで、訪問対象者により寄り添ったサポートができることを紹介した。訪問事例が具体的でとても参考になったと好評で合った。また、参加者同士の経験や考え方を述べていただき、求められる援助内容について情報交換した。

第３回テーマ：「ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～」
第４回テーマ：「家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～」

・日　時：2022 年 10 月 29 日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
・講　師：行田智子(群馬県立県民健康科学大学看護学部教授)
・参加者：３人

Zoom での講義を行った。HFA の家庭訪問事業で行われているニーズの把握方法として、両親調査(ケンプ・アセスメント)について説明した。具体的には両親調査時の注意点、両親調査 10 項目の質問例、両親調査の報告書の記入と評価、評価に基づく家族の強みと弱み（課題）の査定の仕方の説明をした。講師が実践した支援の紹介をしながら、妊娠期の支援と育児期の支援のポイント、妊娠期から育児期までを継続して支援していくことの重要性を説明した。実際の面談を想定して、演習も取り入れながら進めた。

第５回テーマ：「成長発達と生活づくり」
第６回テーマ：「子どもと心を通わせるふれあい遊び」

・日　時：2022 年 11 月 12 日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
・講　師：髙橋由美子(元岐阜聖徳大学看護学部看護学科講師)
・参加者：３人

ライフコースにおける乳幼児期の重要性を確認し、子どもの成長・発達の概要や子どもの健康な成長・発達の基盤となる予防接種、安全、日常生活の注意点等を説明した。また、月齢ごとの特徴をふまえて支援のポイントを確認した。親子の愛着を促すあそびを紹介し、実際に乳児人形を用いて、対象者・支援者役となって、子守歌や絵本読み、ふれあい遊びの演習をした。身近な素材を使って、参加者一人ひとりが手作りのおもちゃを作成し、共有した。

第７回テーマ：「訪問の基本～ロールプレイ」

・日　時：2022 年 11 月 19 日（土）13：00～15：00
・講　師：宇田公美子(ルツ助産院院長)
・参加者：２人

グループワークとして、ケースを設定し、ロールプレイを行った。ケースが両親調査のふるい分けで何点であるか、訪問員がどのような声かけを行っていくかなど、実際の訪問を想定しグループ別にロールプレイを行い、良い点や改善点を共有した。受講者が家庭訪問の経験がなかった為、訪問のイメージをつくるために役立つ講座となった

第８回テーマ：「訪問の実際～よくある質問と支援の内容」

・日　時：2022 年 11 月 19 日（土）15：00～17：00
・講　師：上島久美子(助産師)
・参加者：２人

第８回では、HFH での家庭訪問の目標・家庭訪問の流れ・家庭訪問を支える援助スキル①子供の発達をみる視点②親子関係を見る視点③母親の精神状態の把握④パートナーや親族との関係⑤訪問時によくある質問について説明をした。長所を活かした援助についてや訪問員は 1 人で抱え込まないようにすることなどの心得も説明した。実際に 2 事例を紹介し、どのような人達と連携しながらケースに関わっていったのかを具体的に伝えた。訪問時に訴えを傾聴するのは大切ではあるが傾聴とは何か一緒に考えた。

第９回テーマ：「実践を支える５つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～」
第 10 回テーマ：「実践を支える５つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～家庭」

・日　時：2022 年 12 月３日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
・講　師：坂鏡子(NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長)
・参加者：３人

家庭訪問の実践を支える５つの戦略として、①ストレスを理解し寄り添う、②肯定的な事柄を強調する、③一緒に探索し思いをめぐらす、④一般化する(正常化する)、⑤問題の検討を挙げ、聞き方の戦略としては、①一般化(正常化)、②明確化、③オープンな質問、④ワーカーとしての心得を説明した。講義内容をふまえてロールプレイを行い、理解を深めた。問題の検討の３段階としては、第１段階：気がかりな子どもの行動や親の意見や考えをまとめる。第２段階：その意見は一般的に信じられてきたもの、一般的によくあることだと伝える。(一般化・正常化)。第３段階：一緒に思いをめぐらせ、親の知識や解決方法を広げる情報を伝える等の説明をした。最後に、日頃の活動における疑問などに応えた。

（2）実施結果

1．講座受講者：29 人（延べ人数）

全講座受講修了者：２人、部分受講者：３人

2．家庭訪問員の養成講座のアンケート結果

問１　講座の内容全般について（4 択）

内容	回答者
1）とても満足	89.7（%）
2）満足	10.3（%）
3）やや不満足	0（%）
4）不満足	0（%）

問２　どんな点が良かったか(複数回答可)

内容	回答者
1）役立つ情報が得られた	30（%）
2）日頃の生活や活動に役立った	22（%）
3）スキルアップにつながった	13（%）
4）他の参加者との交流・情報交換が図られた	11（%）
5）抱えていた問題・不安の解消につながった	2（%）

問３　その他の良かった点の内容

第１回	・家庭訪問する上での母や家族との関わり方、接し方のポイントがよく理解できた。否定せずほめる等。
第２回	・相手の情報を聞き出す話し方のポイントが学べた。日頃の自分自身の振り返りができた。 ・参加型の講義で楽しかった。
第３回	該当なし
第４回	該当なし
第５回	・忘れていた発達の基本を思い出した。 ・子どもにレジリエンスを身に着けてほしいと思えば、養育者の心の安定がまず第一であると思える話がたくさんありよかった。
第６回	・おもちゃ作りなど、自分で経験しているものが実際にお母さんにお勧めできると思うので、体験できてよかった。 ・月齢に応じた遊びの再確認ができた。母親に遊びを提供できる。
第７回	・ロールプレイをしてよい経験になった。
第８回	該当なし
第９回	・今まで絵の学びの根底は親子の長所を生かしていくことの重要性が理解できた。
第１０回	・演習のワークが学びになった。

問４　どんな点が良くなかったか(複数回答可)

該当なし

問５　意見

第１回	・HFH の理念、組織力にとても感動しました。クリニック勤務をしていますが、市に紹介となった事例のその後についてはあまり知る機会もなく、どうなったのかなと気になることがよくありました。自分の足で訪問し、サポートして経過を見させてもらえる体験が自分のケアカアップにつながることが明確に感じられたので、これからも学んで行動につなげたいと思います。クリニックでのスタッフや医師に対する活動の周知方法、保健師さんへの紹介のちがいを詳しく知っていきたいです。 ・仕事の中でも外国籍の方との言語の壁、生活の質や状況の違いについて悩むことが多いので、いろんな国の妊娠中～産後にかけての子育て内容があるとよりスキルアップになると感じた。とても勉強になりました。
第２回	・看護学部時代に学んだ技術を改めて振り返る機会になった。思い返してみると普段の仕事で使っていることも多く、また改めて意識しながら使ってみようと思えた。
第３回	該当なし
第４回	該当なし

第５回	・子どもの発達知識の再確認ができた。
第６回	・実際に遊ぶ子どもをイメージして、どんなのが好きかな、どうやって遊んでくれるかなと思って作る過程が楽しかった。実際に訪問した時には、その過程をお母さんと楽しみたい。
第７回	・ロールプレイがあり参加型で面白かった。実践してみて、フィードバックをもらえると、実際の訪問でも実施していこうと思えた。（話し方や笑顔など）
第８回	具体的事例について示してくれ、訪問の実際のイメージがついた。これだけスムースに多職種と連携していけるかな、とも思いますが、訪問員とも連携しつつ一人で抱え込まないようにしてみたいです。
第９回	該当なし
第 10 回	該当なし

３）研修会

（１）実施内容

質の高いサービスの提供が求められるため、年１回外部講師を招いての講演会・研修会を実施している。2022 年度は予定していた講師の体調不良のため、計画を変更して新しい知見の報告を基に研修会として学び合った。

・日　時：2023 年３月 11 日（土）10：00～12：00
・テーマ：「妊婦の食生活と体組成の現状」
・講　師：聖隷クリストファー大学助産学専攻科　三輪与志子先生
・会　場：聖隷クリストファー大学会議室
・参加者：HFH 会員及び子育て支援に関わる者
・内　容：「妊婦の食生活と体組成の現状」について報告
　　報告内容をふまえて、意見交換

（2）実施結果

1．参加者：HFH 会員　10 人

2．研修内容

妊婦が食生活や運動に対して意識が低い中で妊娠が継続されているというデータが示された。妊娠中の望ましい体重となっておらず、体組成データから筋肉量が少ないことも報告された。胎児の発育への影響や、母体の体力が妊娠・出産・子育ての全てに影響することが示唆された。

4）地域連携に向けての交流会

（1）実施内容

2019 年度から社会福祉活動を実践している専門職者や行政の保健師との交流会を開催し、保健・医療・福祉の活動における互いの立場を知り合うよい機会となり、必要な時に連携できる関係をつくっていくことの必要性が確認された。

2021 年度は、地域の様々な組織や活動団体とつながって親子・家族を支援する必要性から、交流の対象を拡大して弁護士との交流会を第 4 回として開催した。子どもと家族の生活に関連する法律の基礎知識を確認し、連携のネットワークを広げた。また、社会福祉との連携を更に具体化するための交流会を開催した。

＜第６回地域連携に向けての交流会＞

テーマ：HFH と産婦人科医院との連携に向けて
日　時：2022 年 6 月 28 日（火）18:30～20:00
場　所：聖隷クリストファー大学
目　的：産科婦人科医院の産後ケアの現状と課題を知り、連携の糸口を検討する。
内　容：地域の産科婦人科医院の池平香奈師長による報告
「木村産科婦人科医院の産後ケアの現状と課題」
産後ケアのシステム作りと現状の報告をもとに、HFH との連携について意見交換

＜第７回地域連携に向けての交流会＞

テーマ：HFH と地域の活動との連携に向けて
日　時：2023 年 1 月 14 日　10:00～11:30
場　所：わく里（浜松市西区大久保）
目　的：地域の人たちとの交流を通した活動の実際を知り、HFH との連携の糸口を検討す

る。

内　容：HFH 賛助会員で社会福祉士の和久田ゆかり氏による活動の紹介

「地域の人たちとの交流を通した活動の紹介」

ママ講座や親子講座を開催した経験を参考に、HFH の取り組みについて意見交換

（2）実施結果

＜第６回地域連携に向けての交流会＞

1．参加者：HFH 会員、産科婦人科クリニックスタッフ　14 人

2．交流会アンケート結果（回答 13 人）

問１　講義は有意義だったか（4 択）

とても有意義　10 人

有意義　３人

＜理由＞

- 現状の共有ができた
- 連携はとても大事だと思います。
- 他職種の方の意見交換ができたのでよかった。
- 木村産科さんの活動はお母さんが安心して子育てができるよう産後ケアに力を入れているところ。核家族には必要。
- 木村産婦人科での産後ケアの内容が理解できた。
- 産後ケアの重要性が改めてわかった。産後ケア利用者の増加がグラフでわかりやすく、ニーズがよく理解できた。正常分娩経過後の方だけでなく、NICU 退院後の利用者など幅広い視野の必要性が理解できた。成長・発達に応じた支援の必要性も理解できた。
- 産後ケアの対象月齢が広がったことによる産後ケアの工夫が聞けて良かった。
- トトハウスの現状、活動内容を知ることができた。考え方、課題も知ることができた。
- 詳しく説明していただいた。
- 木村産科の産後ケアの実際が具体的で、対象者のニーズに応えた内容であることがわかった。
- 静岡市に居住しています。「トトハウス」の素晴らしい取り組みの他、浜松市の産後ケア事業についても知るよい機会となった。トトハウスのような産後ケアセンターが増えるとよいと思った。
- 産後ケアについての現状を知ることができてよかった。

問２　話し合いは有意義だったか（4 択）

とても有意義　11 人

有意義　　２人

＜理由＞

- 事例報告も聞くことができ、実際の活動やケアもわかったし、今後必要な方にも伝えやすくなった。
- 顔の見える連携が大切です。
- ケースカンファできて良かった。今後もぜひできたらと思う。

・勤務先で育児相談を受けるが、うつ、虐待につながらないよう HFH の活動は必要だと改めて感じた。
・意見交換ができた。
・直接皆で状況を具体的に共有でき、今後の連携につながるものであった。
・話し合いをすることで、その人のその後もわかるようになり、病院から地域への移行が太くなされているような気がした。
・事例を話し、HFH、産科との役割分担について考えることができた。
・関わったケースの情報交換がよかった。
・事例を取り上げたので、クリニックさんはその後のことがわかってよかったのだと思うし、HFH の活動状況も理解いただけたと思う。
・木村産科と HFH の連携がとれることが明確になった。
・医療機関、トトハウスと地域との連携がとれていて素晴らしいと思った。一人ひとりに寄り添って支援ができていると思った。HFH の活動も素晴らしいと思います。難しいケースにも関わっており苦労もあるだろうと思いますが、情報を共有しながら関わっていることがわかった。
・説明は木村医院の事であったが、社会状況を反映していると思われ、現在の具体的な状況がわかった。
・今後 HFH とのつながりができるのではないかと期待している。訪問ケースの産科での様子、課題を聞けて、背景等も知ることができてよかった。

＜第７回地域連携に向けての交流会＞

１．参加者：HFH 会員３名

２．報告内容と意見

身近なことから活動を始め、フラワーアレンジメントや筍堀り・梅採り、草遊びなど楽しみながら自然を学ぶ活動、活動を通してつながりができた絵本読み聞かせ講師や劇団主催者などの人脈とコラボした活動の紹介があった。HFH の子育て支援の活動に取り入れるとよい点や、今後の活動を考える機会となった。

5）新型コロナ対策生活困窮者支援

（1）実施内容

子育ての支援者がいない、シングルマザー、若年産婦、経済的な問題を抱えている等の親子 15ケースに対して親子に必要な物資を月 1 回届けた。家庭訪問による子育て支援時に、生活の様子や子どもへの関わり方を確認して必要な物資の内容、量を準備し

た。

提供した物資は、育児用のおむつ・おしりふき・ミルク・レトルト離乳食、季節に応じた衣類が不足している親子に衣類、母親用の生理用品、家族で食べる米、おもちゃがなく子どもとの関わり方が苦手な親子にはおもちゃ等を準備した。

（2）実施結果

経済的困窮が顕著な親子は、ミルク・離乳食・おむつ・米を心待ちにしており、限られた物資支援ではあったが、子どもが栄養不良になることなく、体調を崩すことなく発育していくことができていた。物資持参は、要支援だがコンタクトを取りにくい家庭への訪問のきっかけにすることもでき、児童虐待のリスクのある親子が不幸な経緯をたどるのを防止することにつながった。

令和４年度赤い羽根
新型コロナ対策生活困窮者支援事業
NPO 法人　HEALTHY FAMILY　はままつ主催

皆さんの善意に支えられて
頑張って子育てしています

A さん親子
家族関係が不安定ですが、母は一生懸命仕事に取り組んでいます。衣類は貰い物があったのですが肌着がなかったので支援頂き温かく過ごすことができました。

B さん親子
若年、シングルで子育てをしています。学費補助の制度を使い育児用品の支援を受けて節約しながら資格の取得に取り組んでいます。

C さん親子
父の月々の収入が不安定で、母は育休中で収入がなくお米やオムツの支援はとても助かったようです。下の子は兄のお古ばかりでしたが、クリスマスに新しい服を着せることができて、母はとてもうれしそうでした。気持ちの揺れは大きいけれど踏ん張っています。

D さん親子
支援者がおらず、フードバンクなど様々な支援を活用しながら生活しています。マスクは仕事時も必要で、生理用品も助かったようです。

E さん親子
おもちゃが何もありませんでした。月齢に合わせたおもちゃを提供し、子どもの発達を刺激することができました。

F さん親子
支援者がいません。子どもはいつも欲しいものを買ってもらえず、おもちゃの支援を大喜びしていました。母は、介護士の国家試験に合格しました。

G さん親子
隔月で絵本を届けました。絵本に興味を示していなかったのですが、車系の図鑑から始めると興味関心が出てきて、成長発達を促すきっかけになりました。

H さん親子
外国籍の７人家族で、５人の子どもたちは食べ盛り、洗濯物も多く、お米やオムツの支援をしました。母は末子が６か月になったら仕事を探します。

6）NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動

（1）実施内容

13 家庭の 20 人の子どもたちにプレゼントを届けた。年長の子どもからは、生活の中で使う靴や衣類の希望が多く、幼少の子どもたちは親に聞くと、普段買ってあげられないおもちゃや衣類、チャイルドマット、おまるなどの希望があった。なるべく希望を取入れながら、季節の行事を楽しみ普段の苦労をねぎらい新しい年を迎えるための支援を行った。

（2）実施結果

子どもたちや家族から大変喜ばれ、前向きに子育てしていく機会になっていた。家族から多くの感謝の言葉が寄せられた。

赤い羽根　NHK 歳末助け合い事業
NPO 法人　HEALTHY FAMILY　はままつ主催
年末年始プレゼント

親子からのお礼のメッセージ

嬉しいです。一緒に歌ってあげようと思います。

子どもたちがとても喜んでいました。是非、次もあったら嬉しいです。

ずっとほしかった三輪車だったので嬉しいです。

日々使う物なので本当に助かります。いっぱい頂けてうれしいです。

欲しかったチャイルドマットなのでとても嬉しいです。(夕方「さっそくしいて遊んでいます」と写真とメールがきました)

本当に助かります。おもちゃをなかなか買ってあげられなかったのでうれしいです。

嬉しい。助けてもらっている上にプレゼントまでもらえて。子どもたちが喜びます。

非常に助かります。

すごくすごく助かります。

とてもありがたいです。トイレの上に置くオマルは嫌がって座ってくれなくて困っていました。今回のはどこでも置けるので本人が安心する場所で練習できそうです。

5 人きょうだいの
A 君：ありがとうございます。
B さん：めっちゃ気に入った。大事にします。
C ちゃん：幼稚園に履いてっていい？楽しみー。
母：よかったね。大事に使おうね。

子育ては何もかも大変。楽しいと思うことはあまりないけれど、長く働ける仕事を探して頑張っていきたいと思います。

7）妊娠出産に関する制度と手続きについての翻訳版のホームページ公開

2021 年度に多国籍の妊婦や子育て中の親子を対象に、活用できる制度や手続き方法などを案内するスペイン語訳と英語訳の冊子を作成した。今年度は、HP に載せて情報発信した。また、家族用リーフレットのスペイン語・英語訳版を作成した。

ホームページ作成（3 言語・日本語・英語・スペイン語）
アドレス　www.HFH.jp/system

３．今後の展望

NPO 法人　HEALTHY　FAMILY　はままつ（HFH）　は、妊娠期から子育てまでの支援を必要とする親子・家族から求められる活動団体として常に前進をモットーに５年目を迎えています。少子化・人口減少の社会状況は増々深刻さを増し、2023 年４月から子ども家庭庁が創設され、こども・子育て政策の強化が謳われています。HFH は、親子・家族が地域の中で安心して子育てができる社会への一助となるよう HFH の活動に取り組んでいきたいと考えています。

経験豊富な保健医療福祉の専門職者が集まった HFH は、対象の一人ひとりを尊重して、支援を必要とする人びと・家族から求められるニーズに応えるために、社会状況の変化に対応しながら、以下の取り組みを実践していきます。

① 地域の産婦人科及び小児科医院との連携を広げ、妊娠期から子育て期の家庭訪問によって親子・家族の愛着形成を促す支援とともに、子育て中の支援を必要としている親子・家族への家庭訪問による支援を実施していく。
② HFH 活動のピーアールや子育てに関する情報を発信するためにホームページを充実させる。また、行政組織の変更に応じて内容の更新をしていく。
③ HFH にアクセスする名刺サイズカードを、支援を必要としている人の目に留まりやすいところに設置するとともに地域の保健師とのつながりを広げていく。
④ こども家庭庁の動きを見据えながら、行政の子育て支援関連部署や子育て広場とのつながりを発展させていく。
⑤ 子育て中のママが他のママと交流して悩みを共有し、親子の居場所になる内容で母親向け講座を５回開催する。
⑥ 前年度好評であった困窮家族を力づけた「NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動」助成に応募する。
⑦ HFH は NPO 法人としての役割、責任の下、行政施策への提言を行っていく。

参考資料

2022年度 静岡県共同募金会助成事業

2022年度 NPO法人 HEALTHY FAMILY はままつ

家庭訪問員の養成講座 in 浜松

コロナ禍による生活の制約が続き、子育ての孤立化がますます進んでいます。多様な家庭状況の中で、子どもと一日中向かい合い、孤独感を抱えてしまったり、我が子がかわいいと思いながらも、具体的な関わり方がわからず葛藤している親も少なくありません。地域の子育て支援拠点は少しずつ整備されつつありますが、子育てに悩む親をどのように受け止めサポートしていくとよいのか、支援者自身も葛藤していると思います。本講座では、ヘルシー・ファミリー・アメリカ(HFA)のプログラムから基本となる考え方を地域の状況に合わせて学び、妊娠中や出産直後から定期的な家庭訪問を行う家庭訪問員を養成します。親にそっと寄り添い、親と子の愛着形成を促進する支援方法を習得します。

講座No	テーマ	講師	開催日	時間
第1回	NPO法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際	久保田君枝	10月15日(土)	13:00~15:00
第2回	地域社会の資源につなぐ	山名れい子	10月15日(土)	15:00~17:00
第3回	ニーズの把握の方法~両親調査・記録の書き方~	行田智子	10月29日(土)	13:00~15:00
第4回	家族の強みと課題の評価~支援計画の立て方~	行田智子	10月29日(土)	15:00~17:00
第5回	子どもの成長発達と生活づくり	高橋由美子	11月12日(土)	13:00~15:00
第6回	子どもと心を通わせるふれあい遊び	高橋由美子	11月12日(土)	15:00~17:00
第7回	訪問の基本~ロールプレイ~	宇田公美子	11月19日(土)	13:00~15:00
第8回	訪問の実際~よくある質問と支援の内容~	上島久美子	11月19日(土)	15:00~17:00
第9回	実践を支える5つの戦略Ⅰ~聞き方の戦略~	坂 鏡 子	12月3日(土)	13:00~15:00
第10回	実践を支える5つの戦略Ⅱ~問題解決の方法~	坂 鏡 子	12月3日(土)	15:00~17:00

演習を伴う講座もありますが、感染予防対策を十分に行って実施します。関東在住の講師による第3・4回の講座はZoomで行うことを予定しております。

資料代 → 全講座10,000円(1講座1,000円×参加回数)
会　場 → 子ども支援センターはままつ
(浜松市中区泉三丁目1-38 石川ビル1階)
対象者 → 看護師、助産師、保健師、保育士、教育関係者、行政職員、児童民生委員、子育て支援者、バイリンガルの方等
申込先 → hfhamamatsu@gmail.com

問合せ → NPO法人 HEALTHY FAMILY はままつ
TEL:053-488-4973 (子ども支援センターはままつ)
090-4790-7719(久保田君枝)
FAX:053-488-4974 (子ども支援センターはままつ)

HFH HEALTHY FAMILY はままつ

WEB申込QRコード

養成講座の受講者募集チラシ（表）

◎ 講 師 紹 介

講師	所属
久保田君枝	・聖隷クリストファー大学助産専攻科教授、本法人理事長・家庭訪問員
山名れい子	・元浜松市保健師、子育て支援ボランティア、本法人家庭訪問員
行田智子	・群馬県立県民健康科学大学看護学部教授
髙橋由美子	・元岐阜聖徳学園大学看護学部専任講師、本法人副理事長・家庭訪問員
宇田公美子	・ルツ助産院、新生児訪問員、本法人理事・家庭訪問員
上島久美子	・助産師、子育て支援ボランティア、本法人監事・家庭訪問員
坂　鏡　子	・NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長

◎子ども支援センターはままつのアクセス

- 会場：浜松市中区泉三丁目 1-38 石川ビル 1 階
- 駐車場：浜松市中区幸 5-7-30（第 2 駐車場）
  駐車台数（9 台）に限りがあります。
- バス利用の場合：遠州鉄道バス「幸町」停留所より徒歩 1 分

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 申　込　書 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

■講座へのお申込みは FAX・TEL またはメールでお願いいたします。
Web からのお申込みできます。

FAX 053-488-4974　TEL 053-488-4973

メールアドレス hfhamamatsu@gmail.com

WEB 申込 QR コード

ふりがな			
お名前			
TEL		メール アドレス	
国家資格の 有無	あり （ 資格名：　　）・無		
希望講座	※希望講座に〇を付けて下さい。 全講座 ・ 講座 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		

※個人情報の利用について、皆様の個人情報は本事業における目的以外で利用しません。

養成講座の受講者募集チラシ（裏）

2022年度赤い羽根共同募金会助成事業

第6回　地域連携に向けての交流会

― HFH(HEALTHY FAMILYはままつ）と 産科婦人科医院との連携に向けて ―

日　時　2022年6月28日（火）　18:30～20:00

場　所　聖隷クリストファー大学　　1号館1706会議室

参加者　産科婦人科医院助産師、　HFH会員

＜目的＞
産科婦人科医院の産後ケアの現状と課題を知り、連携の糸口を検討する。

スケジュール

18:30 開会あいさつ、趣旨説明
　35　「木村産科婦人科医院の産後ケアの現状と課題」
　　池平香奈師長
19:15 質疑応答
　　意見交換
　50　まとめ
20:00 閉会

第６回地域連携に向けての交流会チラシ

2022年度赤い羽根共同募金会助成事業

第7回　地域連携に向けての交流会

― HFH(HEALTHY FAMILYはままつ）と 地域の活動との連携に向けて ―

日　時　2023年1月14日（土）　10:00～11:30

場　所　和久田ゆかりさん宅（ HFH賛助会員）

住所　浜松市西区大久保町 837

＜目的＞
地域の人たちとの交流を通した活動の実際を知り、 HFHとの連携の糸口を検討する。

10：00　あいさつ、趣旨説明
「和久田さんの活動の紹介」
和久田ゆかり氏

10：30　質疑応答
意見交換
まとめ

11:30　閉会

場所・駐車場案内

第７回地域連携に向けての交流会チラシ

2022年度赤い羽根共同募金助成事業

2022年度　HEALTHY FAMILY はままつ

研 修 会

テーマ

「妊婦の食生活と体組成から
児の出生体重を考える」

講師：聖隷クリストファー大学助産学専攻科
三輪　与志子先生

日時：2023年3月11日（土）10:00～12:00

場所：聖隷クリストファー大学1706会議室

＜スケジュール＞

10:00　開会
10:05　妊婦の食生活と体組成の現状
三輪与志子先生

11:00　意見交換

11;40　まとめ
11:50　閉会

＜お問い合わせ＞
理事長　久保田君枝
聖隷クリストファー大学
助産学専攻科
研究室：：053-439-1454
kimie-k@seirei.ac.jp

HFH事務局
healthy.family.Hamamatsu
@gmail.com
担当：山城、髙橋

2022 年度研修会チラシ

「NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ」

にご理解とご協力いただき、心より感謝申し上げます。

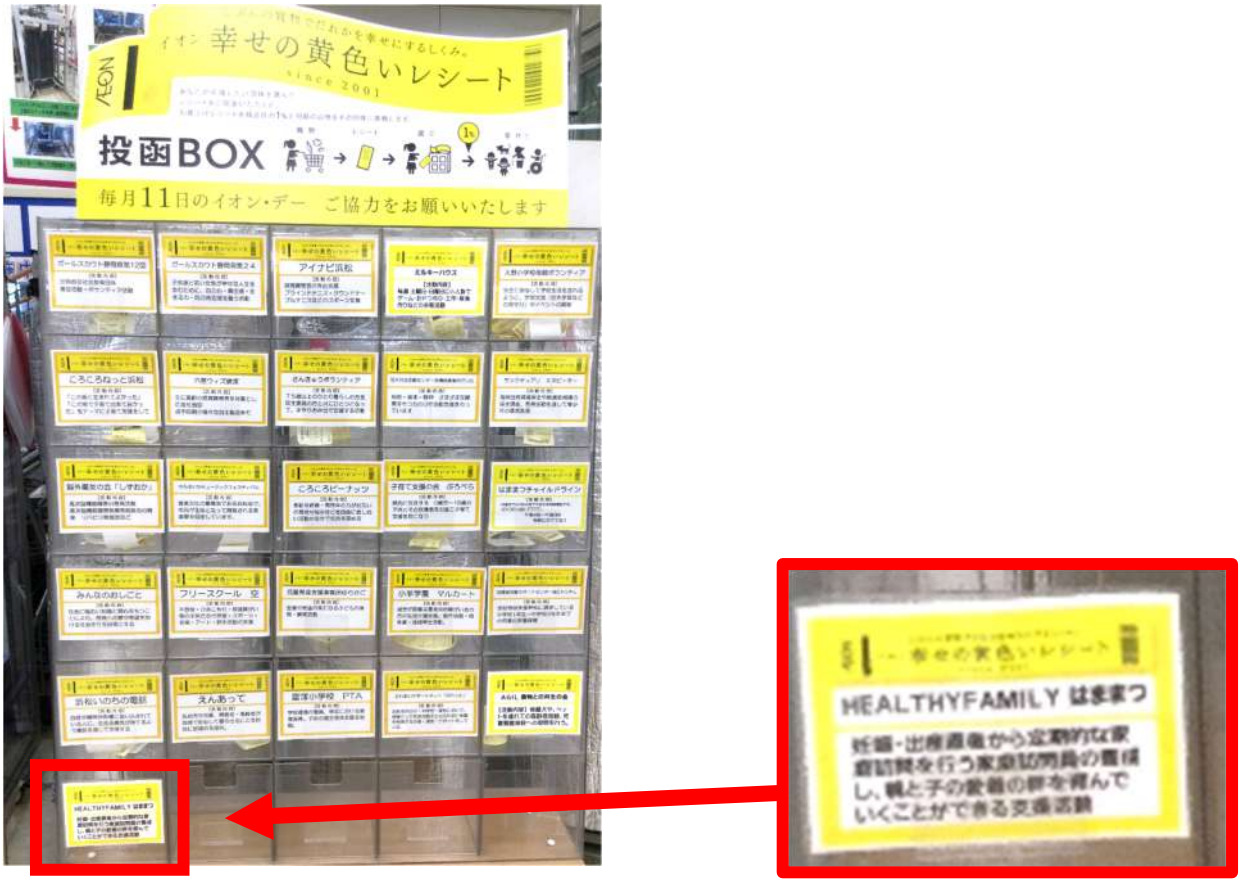
＜2022 年度　寄附者ご芳名（2022 年４月～2023 年３月末）＞

- ゆずり葉こどもクリニック　様
- 個人の支援者の皆様　１１名

合計金額は 21 万 26 円でした。

「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」による御協力

- イオン浜松西店　様
- マックスバリュー浜松和田店　様



親子の強みを大切に

HFH

HEALTHY FAMILY はままつ

妊娠期から親子・家族の愛着形成と
虐待予防のための家庭訪問活動　報告書

2023 年　7 月　発行

発　行　NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ

発行者　久保田 君枝

連絡先　住所　〒433-8124
浜松市中区泉三丁目 1-38 石川ビル2F
電話　053-488-4973
メール　hfhmamatsu@gmail.com
WEB　http://hfh.jp/